



Grundtvig.inc



ASAMI.

株式会社ぐるんとびー 代表取締役
NPOぐるんとびー 理事長

菅原 健介 | Kensuke Sugahara

出身 神奈川県鎌倉市

略歴

1998年 東海大学附属デンマーク校卒業

卒業後、ITベンチャーだった(株)セプテーニで営業職として勤務後に理学療法士に転職。回復期病棟で勤務。

2011年 被災地現地コーディネーターとして、東日本大震災現地へ

2014年 小規模多機能事業所“絆”の管理者を従事

2015年 株式会社ぐるんとびー 創業

中学・高校と
デンマークで過ごしました



3児のパパ
#元々は広告の営業マン
#バックパッカー
#写真から15キロ増

僕のバックグラウンドの共有
中学・高校を過ごしたデンマーク
(1992年～1998年)



これは常識！？

- 高齢者ケアでは・・・胃瘦、食事介助
- 早期からのリハビリ(機能訓練)は禁忌

母はキャンパス創設者の菅原由美 看護の定義について再認識！



生きるを、ともに、つくる。
公益社団法人 日本看護協会

文字サイズ

標準 **AA**

English >

フリーワード検索



よく見られているページ >

看護職の皆さまへ

新着情報

入会のご案内

看護政策の動き

看護統計資料
発行物

看護の質の向上

看護職が働き続けられる職場づくり

看護領域の
開発・展開

会員の皆さまへ >

ICN「看護」の定義


看護とは、協働的で文化的に安全な、人々を中心としたケアやサービスを提供するという共通の責任ある行動を通じて、すべての人々の到達可能な最高水準の健康を享受する権利を守るために貢献する専門職である。看護は、人々が健康および保健医療への公平なアクセスを得られるよう、また安全で持続可能な環境を確保できるよう行動し、擁護する。

看護の実践は、人々の生活の最も個人的な健康の側面における専門的なケアの提供において、看護専門職の理念と価値観を体現するものである。看護は、健康を増進し、ケアの安全性と継続性をまもり、保健医療組織や保健医療システムを管理し主導するものである。看護の実践は、科学に基づく学術的知識、技術的能力、倫理基準、治療的人間関係の独自の組み合わせを基盤とする。看護は、思いやり、社会正義、人類のより良い未来のために尽力する。

(公益社団法人日本看護協会誌、2025年)

ICN「看護師」の定義

大きな転機は2011年3月11日 東日本大震災

- 
- ・支援は専門性ごと
 - ・**24時間365日**の安心感が不足
 - ・多くの避難所にケア人材が不足していた

『3.11東日本大震災』の支援活動を通じて学んだ繋がり的重要性



現地のボランティア統括業務に従事



病院の理学療法士として勤務中に震災が発生。その後は「全国ボランティアナースの会キャンナス」の現地のコーディネーター統括としてボランティア活動をきっかけに石巻市へ。

延べ2万人のナースを動員し復興へ



人は思いやり・共感で動き出せる。平時からの繋がり＝「防災力」

長期化する避難所生活の様子



多様化する被災地のニーズ。多方面からの支援があるも調整できず混乱。そんな中、人と人の“繋がり”から生まれた『助け合い』が最も早く被災者の支援に。

被災者同士が支え合い、励まし合う日々 ご近所付き合いから助け合いへ



**『困っても何とかなる！』
そんな『人』がいる『まち』を創りたい！！**

どうしたらできるか…

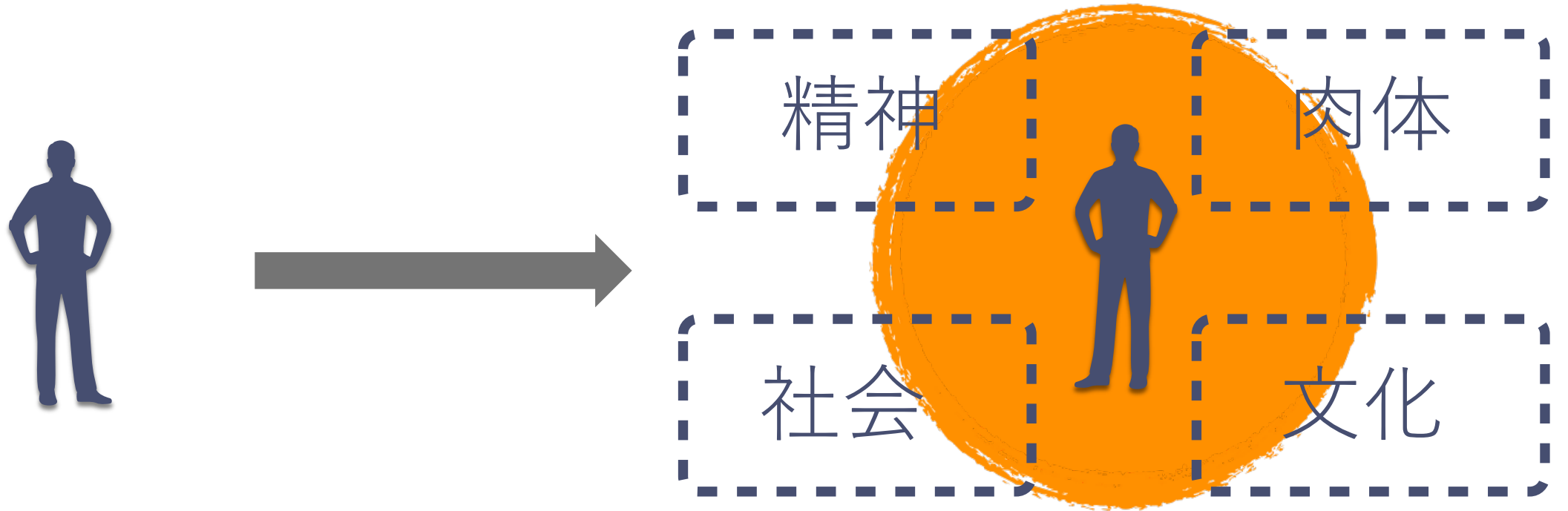
そんな時に思い出したデンマークとグルントヴィ



私たちが大切にしていること

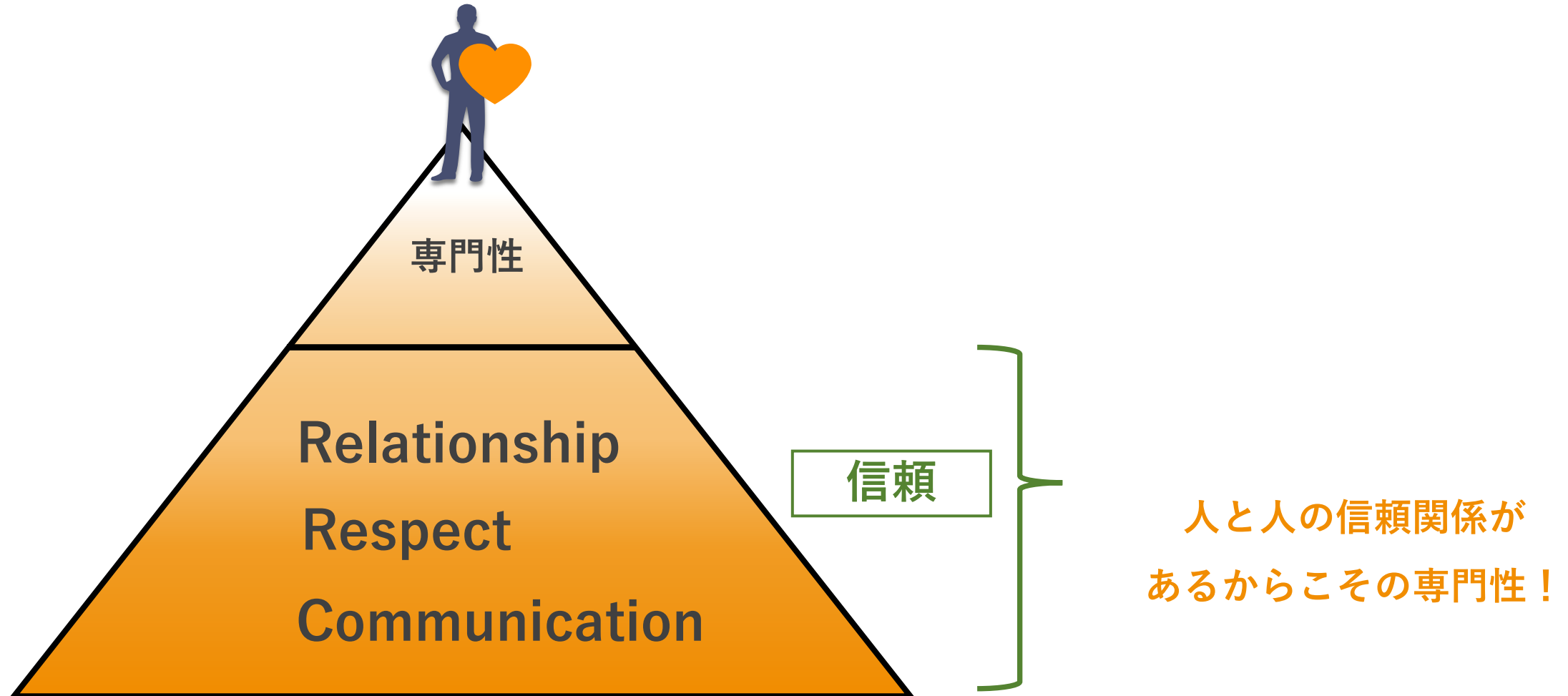
About our philosophy and policy

目の前の相手とどう関わるのか？

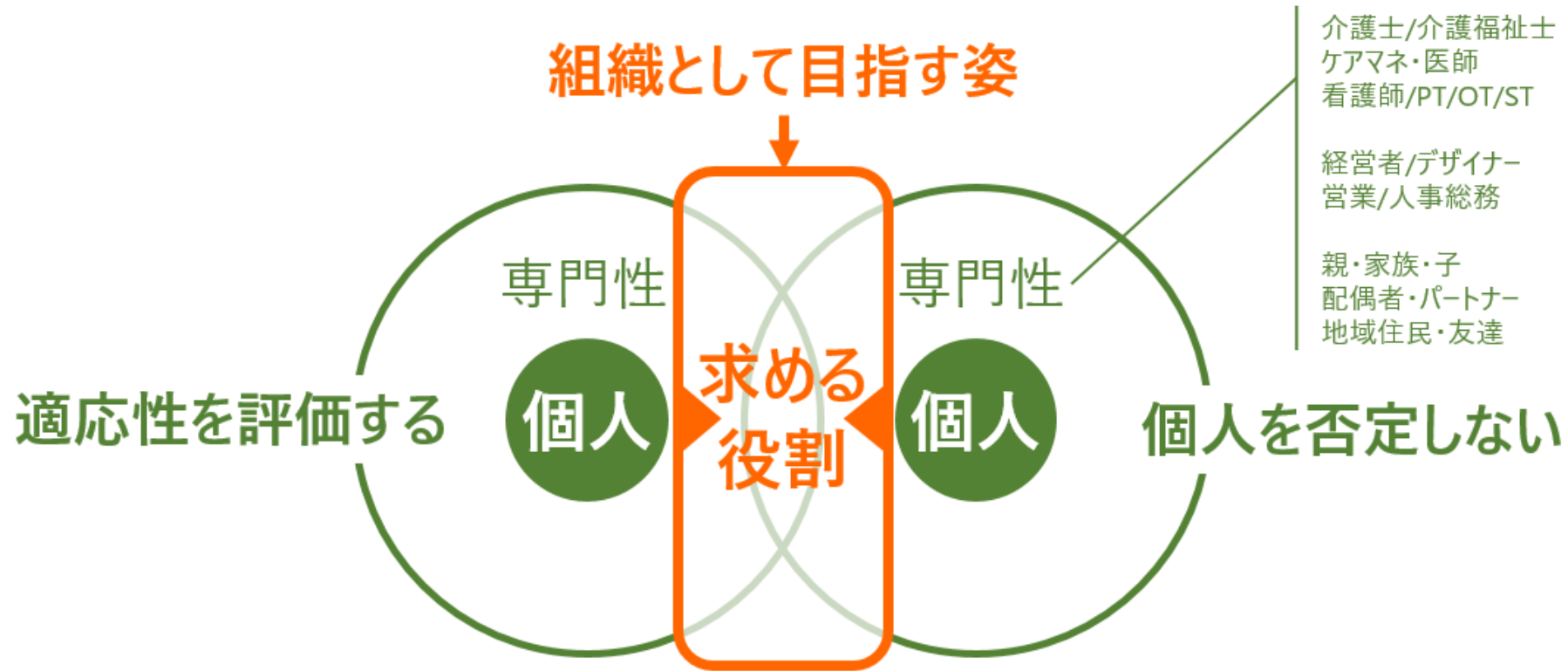


その人らしさの回復→その人の“社会や文化”を**取り戻す** / **構築する**
(rehabilitation) (habilitation)

介護だけでなく、住民として大切にしたい 専門性の前にある関係性

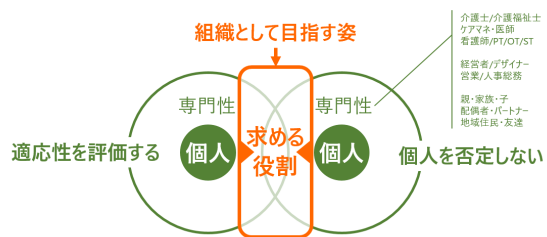


個人/役割/専門性の仕組みを知る



組織で議論するのは個々人が専門的役割を
“目指す姿”のため適切に発揮出来ているか否か？
(良い状態の継続から責任と信頼が形成される)

個人/役割/専門性の仕組みを知る



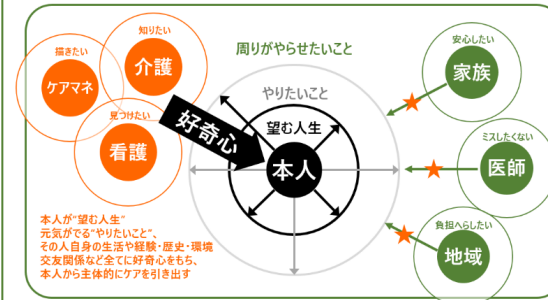
組織で議論するのは個人々が専門的役割を
“目指す姿”のため適切に発揮出来ているか否か？
(良い状態の継続から責任と信頼が形成される)

ぐるんとびー 地域共生の心得え

7つのビジョン/13の行動指針

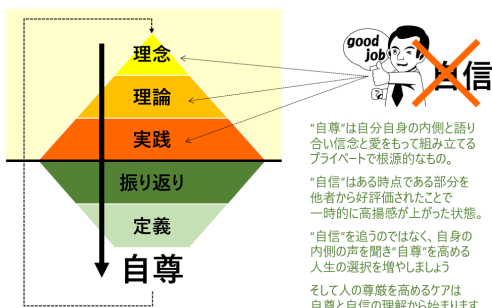
※未だ開発途中

人への興味と好奇心で主体性を引き出す



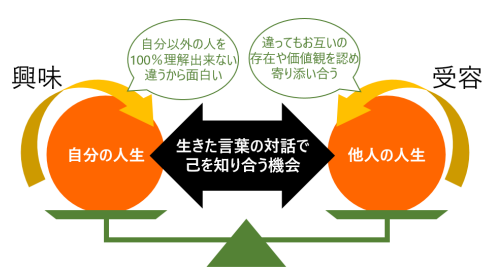
★ 本人が望む人生のために周りにいる人・環境・状況にも興味をもち調整する配慮もとても重要

人の内側から溢れる自尊を高める



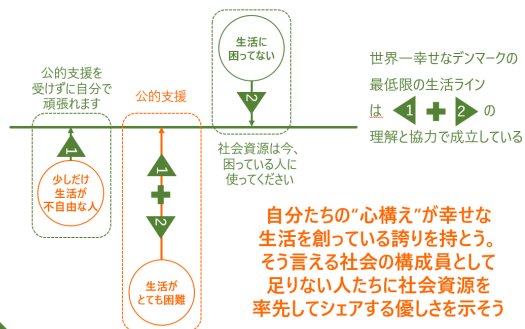
“自尊”は自分自身の内側と語り
合い信念と愛をもって組み立てる
プライベートで根源的なもの。
“自信”はある時点である部分を
他者から好評価されたことで
一時的に高揚感が上がった状態。
“自信”を追うのではなく、自身の
内側の声を聞き“自尊”を高める
人生の選択を増やしましょう
そして人の尊厳を高めるケアは
自尊と自信の理解から始まります。

生きた言葉の対話で人生を大切にしよう



自分以外の“人生”は、自分と同等に意味がある。他人に変化を
期待せず、相手に興味と受容を示す姿勢で人生を豊かにする

平等と公平“ズルい”から脱却する



自分たちの“心構え”が幸せな
生活を創っている誇りを持つ。
そう言える社会の構成員として
足りない人たちに社会資源を
率先してシェアする優しさを示そう

社会の一員として“Hygge”をつくる

「Hygge (ヒュッゲ)」とは世界一幸せな国と称される
デンマーク文化の一部として、人々の生活や考え方の礎を形作る思想。
日本語や英語で意図を的確に表現する言葉がありません。
それは「心地よさ」や「人とともにいるときに感じるぬくもり」
「不安がない状態」「心の穏やかさから溢れる微笑」など
心の状態を指すことあれば、生活の豊かな質を指すこともあります。
お金をかけたリ、飾り立てたり、見栄をはって準備するものではなく
手を伸ばせば届くもの、そのひとつひとつを丁寧に味わうこと、
日々感謝できるように自分自身を“大切に”する姿勢を教える言葉です。
「誰もが今ある自分自身を最大化し、人生を最大限に幸せに生きる」
ぐるんとびーは組織として“hygge”のこの思想を大切にします。
日本にはまだ表現する言葉がない“人生を幸福にする価値観”や“hygge”を
開く人々と一緒に生活の中で分かち合うために仲間をつなげます。
ぐるんとびーは、誰もが当たり前“人生の小さな幸せ”を得られ、
関わるみんなが楽しく生活できる地域社会をつくれます。

HYGGE + GET = HYGGET

地域資源で本人中心ケアを共創する



この当たり前を“地域資源シェア”の精神で突破する

地域にある“もったいない”や“しゃーない”を引き出す

ぐるんとびーで働くための心得え

HYGGET

いつも心と思考に“HYGGET”の意識をもって
言葉や行動のひとつひとつを丁寧に選びます。
私達は「みんなが楽しく生活する」を大切にします

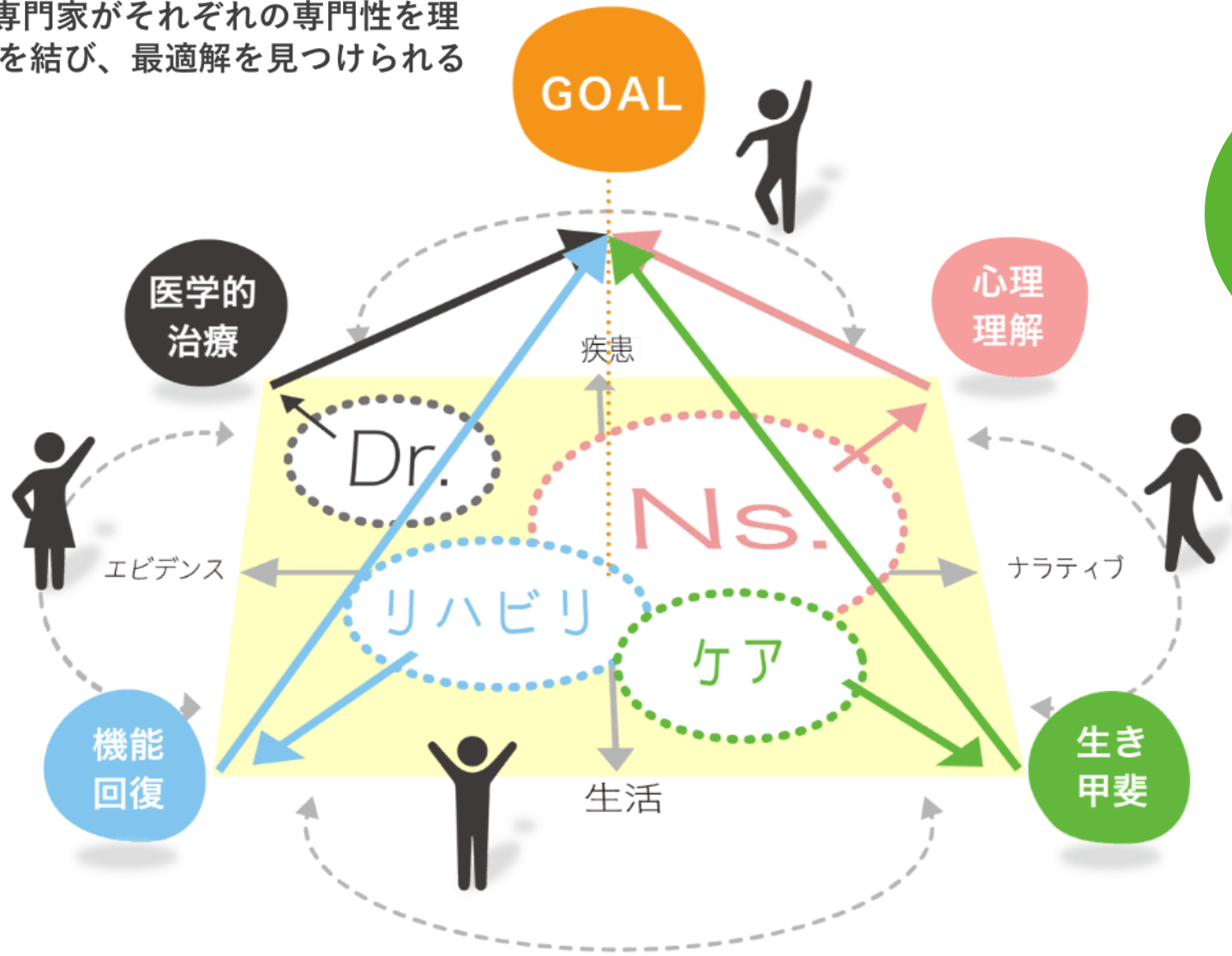
HYGGE

GET

誰もが当たり前持つべき
「人生の小さな幸せ」に必要な
“生活環境”や“安心”、人との
“温もり”や“つながり”に気付き、
感じる成熟した価値観を育む

あなたの行動や選択がみんなの
「人生の小さな幸せ」に貢献して
いるか？判断し、調整する実行力として
自分自身の“hygge”を犠牲にしない
バランス感覚を併せ持つ

360° 全方向の多視点、専門家がそれぞれの専門性を理解し“当事者”のために手を結び、最適解を見つけられる地域モラルを育む



「分かり合えない」がスタートライン?



地域を一つの大きな家族に

団地の6階

看護小規模多機能型居宅介護

5階 自宅

4階 母宅

社員寮／ルームシェア

(要介護5、スタッフ)

2015年8月

日本初となるUR団地の一室を
小規模多機能事業所として展開

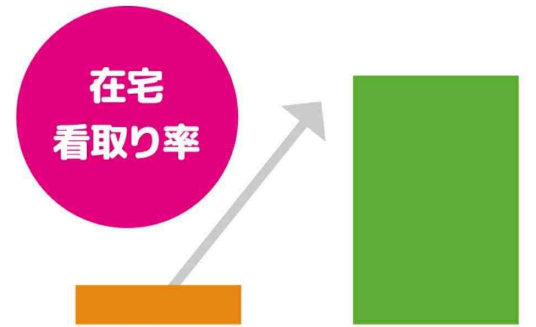


多世代で助け合いながら暮らす
看護小規模多機能 ぐるんとびー
ホーム - 地域密着型介護福祉 ぐる
んとびー



喜んだり、笑ったり、泣いたりを共有して共に暮らす

介護されてる？
ケアしてる？



15.7% **100%**
全国平均 (2020年日経調べ) ぐるんとびー団地 (※緊急搬送除く)

全国平均では自宅で亡くなる方は15.7%ですが、ぐるんとびーなら**100%の方が、ご本人の望む形での看取りを実現できます。**



ぐるんとびーホームのご紹介

費用例のご案内

一般的な介護施設

家賃

介護
保険料

ぐるんとびーなら
こんなに安い！

団地たとひと部屋の費用が **3LDK 12万** ※部屋によって違いあり

介護保険料 3万×2人(夫婦・要介護3想定)

諸費用

介護保険料3万円と食費を加えても、一般的な施設より負担を軽減できます

団地でルームシェア（他人ではなく、歳の離れたルームメイト）



ぐるんとびー独自の共生型ケアデザインが国内外で評価

“Forbes JAPAN”にて「NEXT100 100通りの世界を救う希望」に選出



アジア健康長寿イノベーションアワード2020
(コミュニティ部門)



福祉活動「地域をひとつの大きな家族に」が、
コミュニティ部門で国内1位、アジアで2位。
アジア1位はベトナム政府。ベンチャー企業が
行政や医療法人を抑えての受賞は初快挙。



主催：日本国際交流センター
(JCIE) / 東アジア・アセアン経
済研究センター (ERIA)
※本事業は、日本政府(内閣官房健
康・医療戦略室)によるアジア健康
構想 (Asia Health and Wellbeing
Initiative: AHWIN) の一環として
実施されたアワード。



From Editors-
2024年6月号

最新号の購入はこちらから >

定期購読のお申し込み >

> 電子版のご案内
> バックナンバー



神奈川県より福祉・高齢者ケアに関する賞・評価も獲得

第6回神奈川福祉サービス大賞 大賞受賞



「かながわベストセレクト20」に選出



第11回神奈川福祉サービス大賞 大賞受賞



地域に一人の人として、スタッフ20名が自治会役員等を兼務



大内由美

藤沢市縁側事業
こまよセランドコーディネーター
藤沢市民の家運営委員



中野正英

湘南大庭地区自治会連合会 副会長
湘南大庭地区防災協議会 理事



川邊祐詩

パークサイド駒寄自治会 副会長
地域活性化協議会委員



堂角田千晶

羽根沢第一住宅自治会 副会長



菅原有紀子

駒寄市民の家運営委員



富樫里美

滝の沢中学校コミュニティスクール
運営委員



中村陽子

ミナシア自治会役員 防災担当

Vision

絶望が持続しない（希望が無くならない）社会を創る

Mission

ぐるんとびーは、

本気で“あなた”を気につけ、理解する人との出逢いを増やす

“あなた”が絶望から脱出するチャンスの選択肢を増やし続ける

“あなた”という存在が誰かの人生を豊かにする実感を増やす

Value

社会において孤立する人の家族性を拡張する（地域をひとつの家族に）



認知症ケアを通じた学び合い ～恋するようにケアをしよう！～



たすけあう



暮らしを一緒に楽しむ



暮らしを一緒に楽しむ



人生の先輩にケアしてもらおう



励ましあう



人として支えあう



ハレもケもあるのが暮らし

次の世代へ
弱っていく姿を見せる
のも生きた学び





さいごまで共にいる

正しさを超え、対話し、行動する

14:00-14:30	23.0°C	0.7
14:30-15:00	32.0°C	1.0
15:00-15:30	30.0°C	0.7



いつ死んでもいいよ！

『正しい』を固定化させず(疑い)

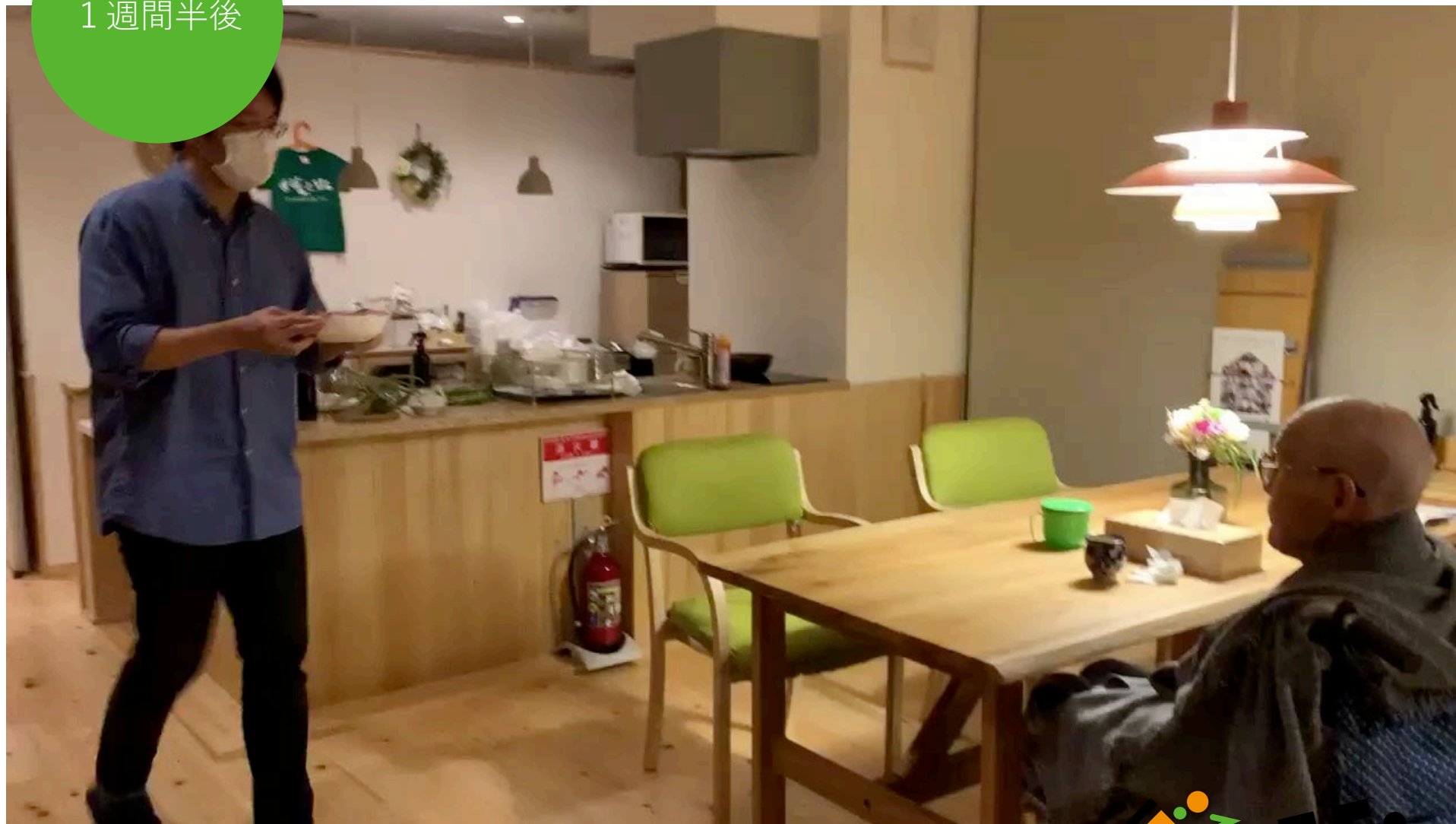
ALWAYS WHY で考え

その瞬間での『最適解』を更新し続ける

出会い

パンフレットのシュウマイ弁当を見て、
「うまそうだな」とつぶやく。

1 週間半後



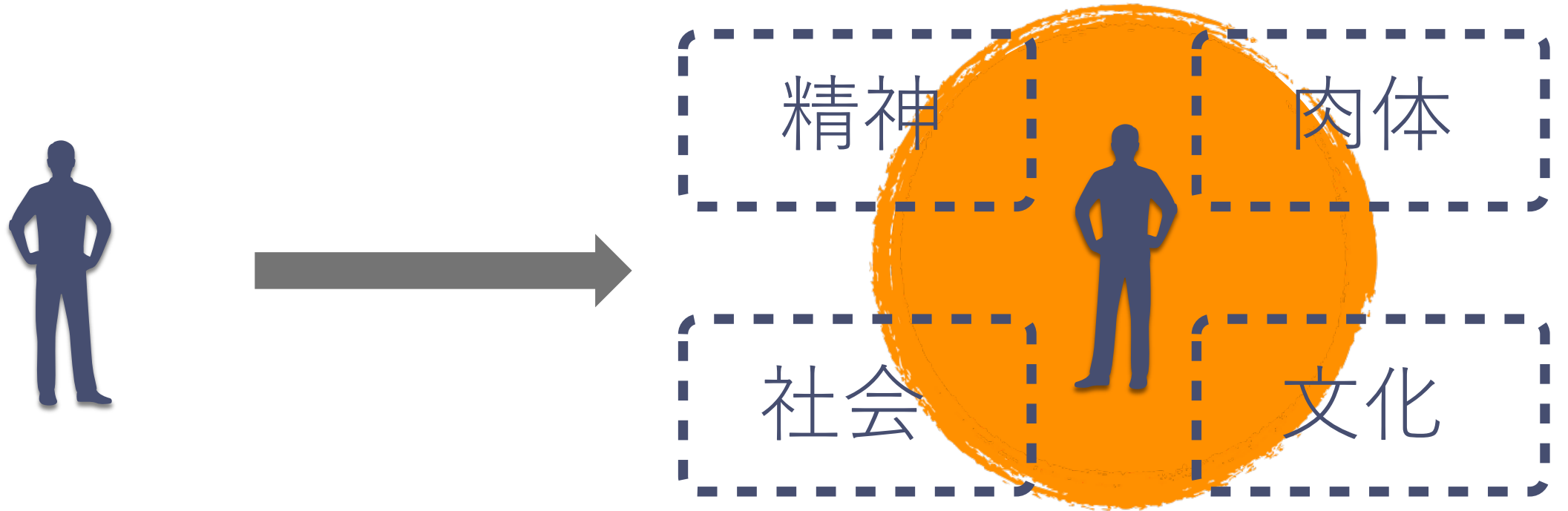
そして、「ラーメン」

死んでもいいから
トロミなんかつけない
96歳、自由に生きる



人には『**失敗する権利**』がある

目の前の相手とどう関わるのか？



その人らしさの回復→その人の“社会や文化”を取り戻す／構築する
(rehabilitation) (habilitation)

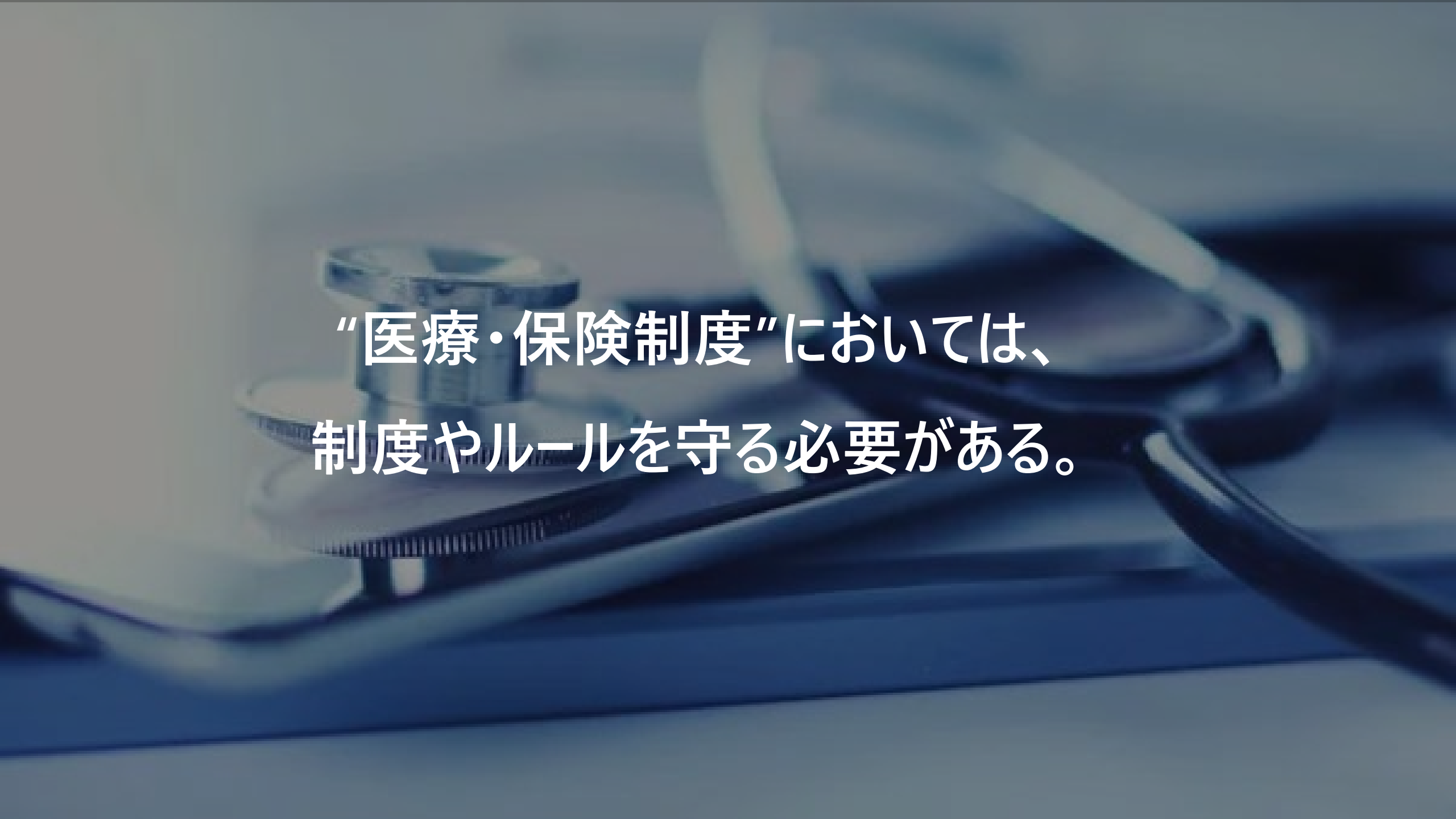


世の中の当たり前前に囚われないように

常識だと思っていることは、非常識かもしれない。

正義の反対は、もう一つの正義。

『常識』や『正しさ』を超え対話しながら新しい社会をつくる



“医療・保険制度”においては、
制度やルールを守る必要がある。

感動できる豊かな人の “つながり”を創る

みんなにワクワクが溢れる人生を応援する。
毎日、生活に感動が生まれる仕事をする。
人と人をつなげる。機会と機会を結ぶ。
関わる誰もがお互いに学び合う文化を育む。

“その人なりの程よく豊かな人生が叶う”を創る会社

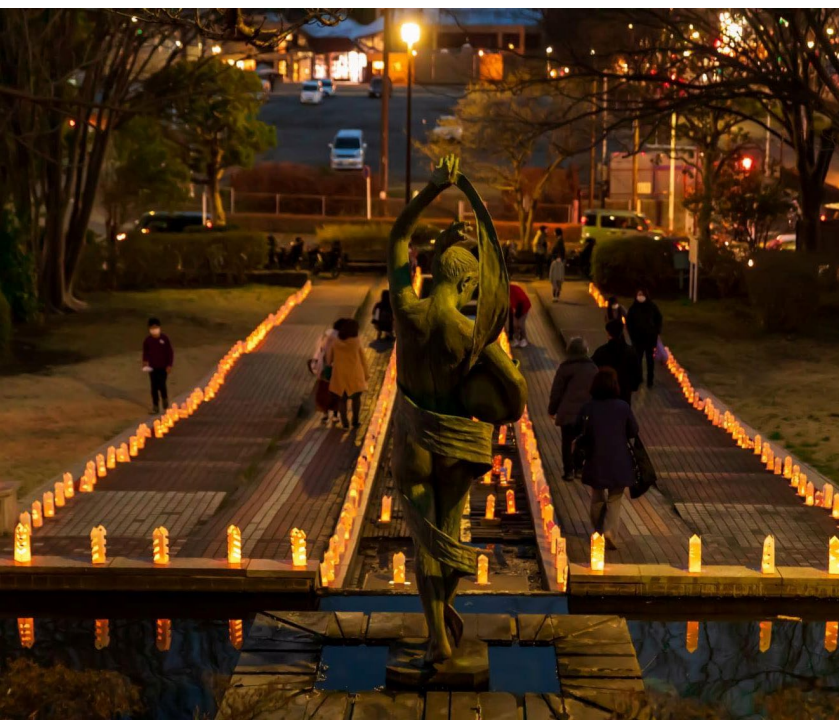


福祉【制度】にとらわれない NPO活動と住民活動

About our philosophy and policy

NPO活動 地域イベント





みんなでハジけよう！ 2023年8月には“夏祭り”を開催！

子供も 全力で夏を楽しむ！ 大人も

夏まつり

湘南大庭 2023

OBASPLASH FESTIVAL

8.26 土

11:00~18:00
雨天延期：予備日8/27(日)

📍 二番構公園
駐車場：湘南大庭市民センター
※近隣店舗には駐車しないでください

入場無料

水でっぼう大会を開催!!

splash FESiTi

田沼 良介さん、中村 愛輔さん、森 真二さん
湘南大庭のヒーロー
格闘技チャンピオンも参戦！
滝ノ沢出身の総合格闘技25王者と3年連続
全日本マスター柔術王者がやってくる！
子供向けのキックボクシング体験を開催！

お気軽に水でっぼうの持ち込み大歓迎！
現地での無料貸し出しも行なっています！
※水鉄砲を使ったゲームを開催します！
水着など濡れてもいい服装、汚れてもいい服装でお越しください。

【協力】 原沢市湘南大庭市民センター レディオ湘南 【後援】 湘南大庭地区郷土づくり推進会議 【主催】 特定非営利活動法人ぐるんとびー
【協賛】 株式会社メディアケア ヨンドングループ コロナまち診療所 NPO法人森の存じゆうがっこう さかい内科・胃腸科クリニック かながわせれモニササポート
【お問合せ】 ☎ 0466-54-7006



NPO活動 地域イベント





その他、子どもから大人までが楽しめる習い事を定期開催！

毎週火曜日開催
格闘技Kids rode
講師：中村賢輔さん



毎月不定期開催
ぐるんとMusic Club
講師：日沼さん（NPO法人Music of Mind）



駒寄小学校の校庭で定期開催するスポーツ教室が拡大中！

株式会社MEDI-TRAINとぐるんとびーの共催
 チャレンジする気持ちや自信を育む
 スポーツ教室『スポトレ』



7都道府県
 25市町村



担当スタッフ：伊藤

<資格一覧>
 理学療法士/アスレチックトレーナー
 ドイツ式ライフキネティック公認トレーナー
 東京商工会議所認定健康経営
 エキスパートアドバイザー



震災支援の経験を生かし、積極的な防災/防犯活動

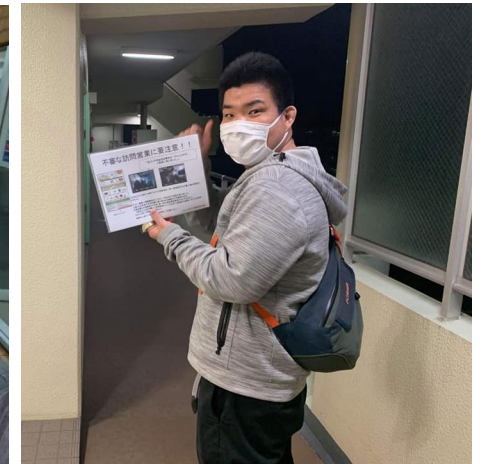
地域の防災訓練/勉強会



第10回神奈川福祉サービス
大賞授賞式にて震災支援の活動報告



地域防犯パトロール



大庭市民センターでの『防災キャンプ』

発災後の避難生活を想定し、子どもから大人までが大庭市民センターにてお泊まりをする「防災CAMP」を企画！



shonan ooba

防災 CAMP

親子で一緒に災害に備える！

防災グッズの確認

防災食の体験

断水や停電の体験

2024. 3.9 Sat - 3.10 Sun

湘南大庭市民センター

時間：9日15:00集合/10日8:00解散

定員・参加費

定員：10組
(定員に達し次第終了)

大人：500円
子ども：300円

※必ず保護者同伴でお申し込みください。
※1日目の夜に帰ることも可能です。

持ち物

災害発生時、避難することを想定したもの
(シェラフをお持ちの方はご持参ください)

スケジュール (予定)

3月9日

- 15:00 集合
- 15:30 オリエンテーション
- 16:00 炊き出し
- 17:00 防災食体験
- 19:00 停電体験
- 21:00 体育館で宿泊

3月10日

- 7:00 朝食
- 8:00 振り返り・解散

申し込み 問い合わせ

特定非営利活動法人くんとびー
0466-54-7006 (担当：富樫)

協力：湘南大庭市民センター
NPO法人こりのうち
湘南大庭市民図書館



24年1月1日能登半島地震に伴い、震災支援活動を実施



3つの団体が連携し、日本で最も早く
「福祉避難所」を設置・運営



Grundtvig.inc

CANINUS



学びは正しさの先にある



ケアのハイパーレスキュー



玄関前に120キロのブロック
ベッドには手錠





夜中の訪問
夜23時からの泊り対応
『全て断らず受けきる』





違う価値観や暮らしを否定せず伴走する







地域サッカーチーム×福祉(介護・障害)



スポーツの持つエンターテイメント性(興奮)は福祉である





大相撲ロンドン公演2025 × Royal Albert Hall of Arts and Sciences

ロンドンの地で日本の伝統文化である大相撲が34年ぶりに開催される。

イギリスの世界最高峰のイベントホールから世界の人々へ向けて。日本の伝統文化の魅力を体感いただく貴重な機会において
日本ブランド価値を高めるための取り組みです。

協賛内容：懸賞幕の使用-1

※制作の費用は別途となります。
※日本相撲協会との調整も必要となります。

取組が行われる土俵のうえで、ビジュアルを元に御社の懸賞幕を掲出する（枚数は要調整）

写真映えする演出：大きなビジュアルが土俵上に並ぶ懸賞幕は、観客が自然と写真を撮りたくなるビジュアルを提供し、SNSでの拡散が期待できます。

日本文化と応援の融合：相撲の伝統的な応援文化と御社のロゴとお取り組みを海外に伝える絶好の機会となります。

応援のココロを強調：懸賞幕は力士への応援の象徴であり、文化への支援姿勢、スポーツマンシップを称賛する企業姿勢を際立たせます。



Appendix

福祉を「制度」から「暮らし」へ奪還する

ぐるんとびーが仕掛ける、団地という名の「疑似家族」エコシステム

仕事を「暮らし」の一部に。

UR団地で実現する多世代共生型・新ケア拠点「おかみ」モデル

団地のひと部屋から、地域を一つの大きな家族へ。
24時間365日の安心と、多国籍・多世代が囲む食卓の融合。

仕事と暮らしの境界線を、
ポジティブに溶かす。



Before



暮らし = ケア = 価値

After / Okami Model



介護職の低賃金、孤独な子育て、地域コミュニティの希薄化。これらの課題は「ケア施設に通う・働きに行く」という分離から生まれます。私たちが提案するのは、団地の3LDKを「ケアの拠点 兼 住居」とし、有資格者が「おかみ」として居住する全く新しい価値交換モデルです。

「通う事業所」から「暮らす拠点」へのパラダイムシフト

従来モデル

おかみモデル



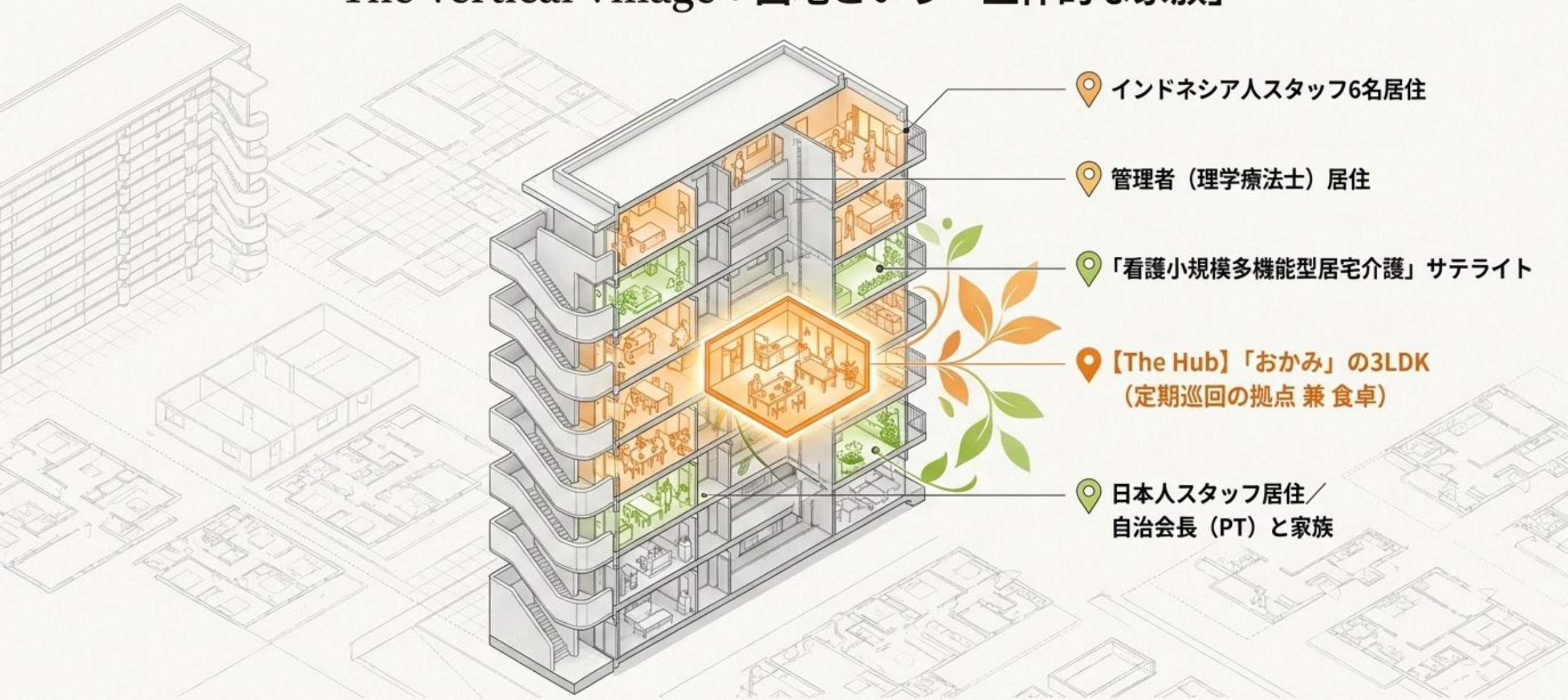
拠点の位置づけ	オフィスビル等の専用事業所	 団地内の3LDK(住居兼拠点)
報酬の概念	シフト化された労働時間のみ	 暮らしの支援全般(夕食作り等も評価)
提供価値	スポットの訪問・作業提供	 24時間365日の安心と、共に囲む食卓
サービス形態	訪問のたびに調整が必要	 定期巡回型(1日何でも必要に応じて訪問可能)

介護業界の常識を打破する「年収624万円」の給与構造



年収換算624万円
+
住居費無償化
= **実質700万円級の価値**

The Vertical Village : 団地という「立体的な家族」



物理的な近接性が、施設（ハコ）を使わなくても即座に助け合える「見えないセーフティネット」を構築する。

境界線を溶かす、多国籍・多世代の「互助ループ」



一人が全てを背負うのではなく、互いの「暮らしの余白」を提供し合うことで、持続可能なケアシステムが自律的に回転し始める。


点から面へ。団地全体が「一つの家」になる社会。



私たちが作るのは、単なる介護拠点ではありません。

この「おかみのいる3LDK」という最小単位（点）を、団地の中に、そして日本中の地域に増やしていくこと。それは、失われた地域共生社会を、極めて現実的で持続可能な形で再実装する「呼吸するブループリント」です。

専門性は、スキルだけで自立しない



ケアの技術・効率

目に見えない土台

福祉や介護の介護の現場では、常に「効率」と「質」の狭間で揺れ動きます。

しかし、デンマークで学んだ本質は、専門性の下には目に見えない強固な「土壌」が必要だということです。

20時間の残業は、事務作業のためではありません。

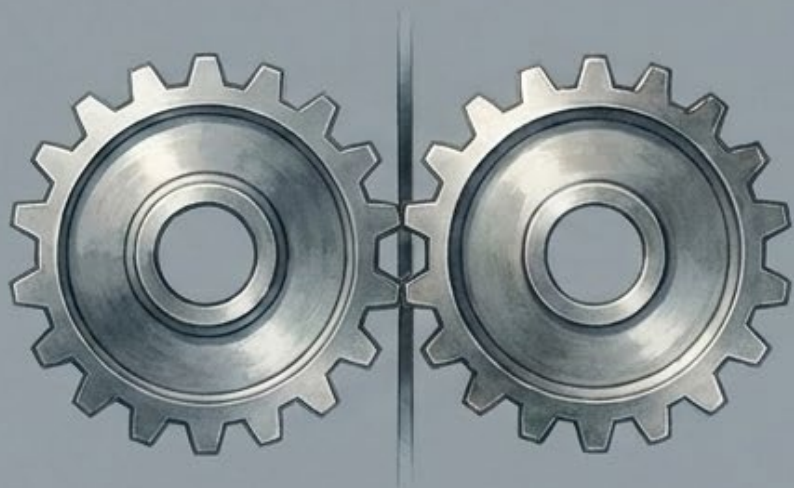
私たちがプロとして立つための「土壌を耕す時間」なのです。

専門性を「ケア」へと昇華させるデンマークの3つの柱



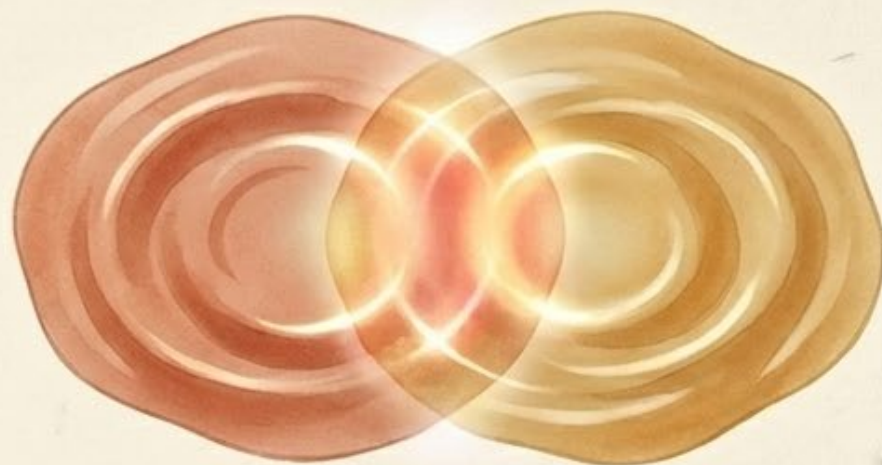
デンマークの格言：「専門性が発揮されるためには、その土台にこの3つがなければ
ならない」。これらが欠けた専門性は、ただの「作業」に成り下がります。

「関係性」の罫を抜け出し、「響合 (Kyogo)」へ



一般的な「関係性」

- 静的・構造的なつながり
- 相手との間に明確な境界線がある
- 現状維持を前提とする



ぐるんとびーの「響合」

- 動的・生命的なつながり
- 相手の中に自分が入り込み、混ざり合う
- 互いの価値観が変化し新しい価値が生まれる

定時で帰る「ホワイトな働き方」は、一見正しく見えます。
しかし、それでは「同僚がなぜそのケアを選んだのか」という背景を知る余白がありません。
20時間は、お互いの人生の背景を共有し、響き合うための余白なのです。

「リスペクト」は、同意ではなく「驚き」から生まれる



自分と同じ考えの人を
尊重するのは簡単です。

しかし、形だけの「チームワーク」は
いざという時に崩れます。

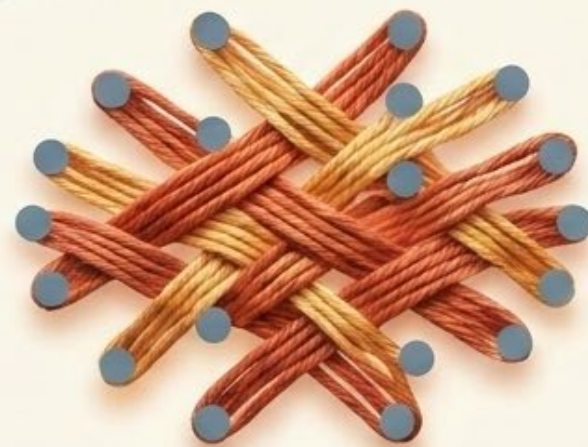
語り合いの中での「驚き」を飛ばして、
真のリスペクトは生まれません。

情報の「点」を打ち続けるか、意味の「線」を編み上げるか



申し送り（情報伝達）

業務上のやり取りは維持できても、思想は途切れる。



対話（ダイアローグ）

点と点を結び、文化という強い布を織り上げる。

答えのない問いについて、あえて時間をかけて話し合う。

この無駄に見える「線」のコミュニケーションこそが、ぐるんとびーの「文化」というOSを更新し続ける作業です。

20時間の残業は「強制されたヒュッゲ (Hygge)」である

Myth

~~ヒュッゲは
自然発生する~~



Truth

意図的に
時間と空間を
確保して作り出す

デンマークの「ヒュッゲ (心地よい繋がり)」は、勝手に生まれるものではありません。
キャンドルを灯すように、意図的に作り出すものです。
早く帰れるけれど、あえて残って語り合う。この主体的な選択が文化を作ります。

効率の波に飲まれるか、常識に挑戦し続けるか

普通の介護会社



働き方の正義：
定時で帰る（効率優先）



コミュニケーション：
点の情報伝達のみ



組織のあり方：
単なる「作業者の集団」

ぐるんとびー



働き方の正義：
あえて残る（余白の確保）



コミュニケーション：
線の対話（意味の生成）



組織のあり方：
地域を大きな家族にするチーム

対話の時間を捨て「早く帰るのが正義」という世間の価値観に流されれば、私たちは「普通の、少し忙しい介護会社」になってしまいます。そこに、あなたの専門性を発揮できる土台は残るでしょうか？

「義務」から、仲間と響き合うための「権利」へ

1. 価値観の交換会

成功事例ではなく、現場で「心が揺れ動いた瞬間」を共有する。

2. デンマーク思想の深掘り

グルントヴィの言葉を、今の現場のリアルな悩みに当てはめてみる。

3. 「ただ居る」時間

効率を求めず、スタッフや利用者と同じ空気を吸い、関係性を編み直す。



20時間の残業は、会社があなたを縛るための時間ではありません。
あなたがプロフェッショナルとして成熟するための研鑽の時間です。

「人間中心」のケアは、自分たちの中から始まる

利用者に「リレーションシップ」や「リスペクト」を届けるためには、
まず私たち自身が、その温かさの中にいなければなりません。
定時で帰ることを選ぶ前に、一度立ち止まって考えてみてください。

「今日、私は仲間の新しい一面を知ることができただろうか？」